

指定短期入所生活介護利用契約書

〔利用者〕 _____（以下「契約者」といいます。）と
〔事業者〕 社会福祉法人 清祥会（以下「事業者」といいます。）は、
利用者が、ユニット型短期入所介護施設及び介護予防ユニット型短期入所生活介護施設こすもす、並びに短期入所介護施設及び介護予防短期入所生活介護施設こすもす（以下「事業所」という。）において、事業者から提供されるユニット型短期入所生活介護サービス又は介護予防ユニット型短期入所生活介護（以下「ユニット型短期入所生活介護」という。）、及び短期入所生活介護又は介護予防短期入所生活介護（以下「従来型短期入所生活介護」という。）サービス（以下「短期入所サービス」という。）について、以下のとおり契約を締結します

第1条（契約の目的）

- 1 事業者は、介護保険法令の趣旨に従い、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立した日常生活を営むことができるように支援することを目的として、利用者に対し、その日常生活を営むために必要な居室及び共用施設等を使用させるとともに、第4条及び第5条に定める短期入所生活介護サービスを提供します。
- 2 事業者が利用者に対して実施する短期入所生活介護サービスの内容、利用期間、費用等の事項は、別に「重要事項説明書」に定めるとおりとします。

第2条（契約期間）

本契約の有効期間は、契約締結の日から契約者の要介護認定の有効期間満了日までとします。

但し、契約期間満了の2日前までに契約者から文書による契約終了の申し入れがない場合には、本契約は更に同じ条件で更新されるものとし、以後も同様とします。

第3条（短期入所生活介護計画及び介護予防短期入所生活介護計画の決定・変更）

- 1 事業者は、利用者に係る居宅介護サービス計画又は居宅介護予防サービス計画（以下「居宅サービス計画等」という。）が作成されている場合には、それに沿って利用者の短期入所生活介護計画又は介護予防短期入所生活介護計画（以下「短期入所生活介護計画等」という。）を作成するものとします。
- 2 事業者は、利用者に係る居宅サービス計画等が作成されていない場合でも、短期入所生活介護計画の作成を行います。その場合に、事業者は利用者に対して、居宅介護支援事業者を紹介する等、必要な支援を行うものとします。

- 3 事業者は、短期入所生活介護計画について、利用者及びその家族等に対して説明し、同意を得た上で決定するものとします。
- 4 事業者は、利用者に係る居宅サービス計画等が変更された場合、もしくは利用者及びその家族等の要請に応じて、短期入所生活介護計画等について変更の必要があるかどうかを調査し、その結果、当該計画の変更の必要があると認められた場合には、利用者及びその家族等と協議して、当該計画を変更するものとします。
- 5 事業者は、短期入所生活介護計画等を変更した場合には、利用者に対して書面を交付し、その内容を確認するものとします。

第4条（介護保険給付対象サービス）

- 1 事業者は、介護保険給付対象サービスとして、利用者に対して、入浴、排せつ、食事等の介護その他日常生活上の世話及び機能訓練を提供するものとします。
- 2 ユニット型短期入所生活介護サービスを提供する場合には、概ねそのユニットにおいてサービスを提供するものとします。
- 3 事業者は、短期入所サービスの提供に際し、原則として利用者の要介護認定及び要支援認定の期間における区分支給限度額の半分を超えるサービスの提供を行わないこととします。
- 4 但し、前項については、利用者の生活状況や居宅における生活継続の困難性等を勘案し、また居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等との協議の上でやむを得ない場合を除くものとします。

第5条（介護保険給付対象外のサービス）

- 1 事業者は、利用者又はその家族等との合意に基づき、介護保険給付の支給限度額を超える短期入所生活介護サービスを提供するものとします。
- 2 前項の他、事業者は、介護保険給付対象外のサービスとして、以下のサービスを提供します。
 - ① 契約者が選定する特別な食事の提供
 - ② 理美容サービス
 - ③ 利用者からの貴重品の管理
 - ④ その他の生活サービス
- 3 前2項のサービスについて、その利用料金は契約者が負担するものとします。
- 4 事業者は、第1項及び第2項に定める各種のサービスの提供について、必要に応じて利用者の家族等に対してもわかりやすく説明するものとします。

第6条（契約期間と利用期間）

本契約でいう「契約期間」とは、第2条に定める契約の有効期間をいい、「利用期

間」とは、第2条で定められた契約期間内において、事業者が利用者に対して、現に短期入所サービスを実施する期間をいいます。

第7条（サービス利用料金の支払い）

- 1 利用者は、第4条に定めるサービスを受け、重要事項説明書に定める所定の料金（サービス利用料金から介護保険給付額を差し引いた差額分：サービス利用料金の1割～3割）を事業者に支払うものとします。
- 2 利用者が、要介護認定を受けていない場合及び居宅サービス計画が作成されていない場合には、サービス利用料金を一旦支払うものとします。（要介護認定後又は居宅サービス計画作成後、自己負担分を除く金額が払い戻されます。）
- 3 利用者は、食事の提供を受けた場合、重要事項説明書に定める所定の食事費用を事業者に支払います。
- 4 利用者が、ユニット型短期入所生活介護サービスを受けた場合は、重要事項説明書に定める居室利用費用を事業者に支払います。
- 5 利用者が、短期入所生活介護サービスの提供を個室又は多床室で受けた場合は、それぞれ重要事項説明書に定める居室利用費用・光熱費等を事業者に支払います。
- 6 前4項の他、利用者は、重要事項説明書に定める日常生活上必要となる諸費用実費（おむつ代を除く）を事業者に支払うものとします。
- 7 利用者は、前5項に定めるサービス利用料金をサービスの利用終了時に、支払うものとします。

第8条（利用の中止・変更・追加）

- 1 利用者は、第6条に定める利用期間前において、短期入所サービスの利用を中止又は変更、もしくは新たなサービスの利用を追加することができます。この場合には、利用者はサービス開始日の前日までに事業者申し出るものとします。
- 2 利用者が、利用開始日に利用の中止を申し出た場合は、重要事項説明書に定める所定の取消料を事業者にお支払いいただく場合があります。但し、利用者の体調不良等正当な事由がある場合は、この限りではありません。
- 3 事業者は、第1項に基づく利用者からのサービス利用の変更・追加の申し出に対して、事業所が満室で利用者の希望する期間にサービスの提供ができない場合、他の利用可能期間を利用者に提示して協議するものとします。
- 4 利用者は、第6条に定める利用期間中であっても、サービスの利用を中止することができます。
- 5 前項の場合に、利用者は、すでに実施されたサービスに対する利用料金支払義務及び第12条第3項（原状回復の義務）その他の条項に基づく義務を事業者に対して負担しているときは、利用終了日に精算するものとします。

- 6 第4項により利用者がサービスの利用を中止し、事業所を退所する場合において、事業者は、利用者の心身の状況、置かれている環境等を勘案し、必要な援助を行うものとしします。

第9条（利用料金の変更）

- 1 第7条第1項に定めるサービス利用料金について、介護給付費体系の変更があった場合、事業者は当該サービス利用料金を変更することができるものとしします。
- 2 第7条第2項及び第3項に定めるサービス利用料金については、経済状況の著しい変化その他やむを得ない事由がある場合、事業者は、契約者に対して、変更を行う日の2か月前までに説明をした上で、当該サービス利用料金を相当な額に変更することができます。
- 3 利用者は、前項の変更に同意することができない場合には、本契約を解約することができます。

第10条（事業者及びサービス従事者の義務）

- 1 事業者及びサービス従事者は、サービスの提供にあたって、契約者の生命、身体、財産の安全・確保に配慮するものとしします。
- 2 事業者は、利用者の体調・健康状態からみて必要な場合には、事業所の医師又は看護職員、もしくは主治医又はあらかじめ定めた協力医療機関と連携し、利用者からの聴取・確認の上でサービスを実施するものとしします。
- 3 事業者及びサービス従事者は、利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わないものとしします。
- 4 事業者は、利用者に対する短期入所サービスの提供について記録を作成し、それを5年間保管し、利用者もしくはその家族代表者等の請求に応じてこれを閲覧させ、複写物を交付するものとしします。
- 5 事業者は、サービス提供時において、利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治医又はあらかじめ定めた協力医療機関への連絡を行う等の必要な措置を講じるものとしします。

第11条（守秘義務等）

- 1 事業者及びサービス従事者又は、短期入所サービスを提供する上で知り得た利用者又はその家族等に関する事項を正当な理由なく第三者に漏洩しません。この守秘義務は、本契約が終了した後も継続します。
- 2 事業者は、利用者に医療上、緊急の必要性がある場合には、医療機関等に利用者に関する心身等の情報を提供できるものとしします。

3 前2項にかかわらず、利用者に係る他の居宅介護事業者等との連携を図るなど正当な理由がある場合には、その情報が用いられる者の事前の同意を文書により得た上で、利用者又はその家族等の個人情報を用いることができるものとします。

第12条（利用者の施設利用上の注意義務等）

- 1 利用者は、居室及び共用施設、敷地をその本来の用途に従って、利用するものとします。
- 2 利用者は、サービスの実施及び安全衛生等の管理上の必要があると認められる場合には、事業者及びサービス従事者が利用者の居室内に立ち入り、必要な措置をとることを認めるものとします。但し、その場合、事業者は、利用者のプライバシー等の保護について、十分な配慮をするものとします。
- 3 利用者は、事業所の施設、設備について、故意又は重大な過失により滅失、破損、汚損もしくは変更した場合には、自己の費用により原状に復するか、又は相当の代価を支払うものとします。
- 4 利用者の心身の状況等により特段の配慮が必要な場合には、利用者及びその家族等と事業者との協議により、居室又は共用施設、設備の利用方法等を決定するものとします。

第13条（損害賠償責任）

- 1 事業者は、本契約に基づくサービスの実施に伴って、自己の責に帰すべき事由により利用者に生じた損害について賠償する責任を負います。第11条に定める守秘義務に違反した場合も同様とします。
但し、利用者に故意又は過失が認められる場合には、利用者の置かれた心身の状況を斟酌して相当と認められる時に限り、損害賠償責任を減じることができるものとします。
- 2 事業者は、前項の損害賠償責任を速やかに履行するものとします。

第14条（損害賠償がなされない場合）

事業者は、自己の責に帰すべき事由がない限り、損害賠償責任を負いません。とりわけ以下の各号に該当する場合には、事業者は損害賠償責任を免れます。

- 一 利用者又はその家族等が、契約締結時にその心身の状況及び病歴等の重要事項について、故意にこれを告げず、又は不実の告知を行ったことにもつぱら起因して損害が発生した場合
- 二 利用者が、サービスの実施にあたって必要な事項に関する聴取・確認に対して故意にこれを告げず、又は不実の告知を行ったことにもつぱら起因して損害が発生した場合

- 三 利用者の急激な体調の変化等、事業者の実施したサービスを原因としない事由にもっぱら起因して損害が発生した場合
- 四 利用者が、事業者もしくはサービス従事者の指示・依頼に反して行った行為にもっぱら起因して損害が発生した場合

第15条（事業者の責任によらない事由によるサービスの実施不能）

事業者は、本契約の有効期間中、地震・噴火等の天災その他自己の責に帰すべからざる事由によりサービスの実施ができなくなった場合には、利用者に対して既に実施したサービスを除いて、所定のサービス利用料金の支払いを請求することはできないものとします。

第16条（契約の終了事由、契約終了に伴う援助）

- 1 利用者は、以下の各号に基づく契約の終了がない限り、本契約に定めるところに従い事業者が提供するサービスを利用することができるものとします。
 - 一 利用者が死亡した場合
 - 二 要介護認定により利用者の心身の状況が自立と判定された場合
 - 三 事業者が解散命令を受けた場合、破産した場合又はやむを得ない事由により事業所を閉鎖した場合
 - 四 施設の滅失や重大な毀損により、サービスの提供が不可能になった場合
 - 五 事業所が介護保険の指定を取り消された場合又は指定を辞退した場合
 - 六 第17条から第19条に基づき本契約が解約又は解除された場合
- 2 事業者は、前項第一号を除く各号により本契約が終了する場合には、利用者の心身の状況、置かれている環境等を勘案し、適切なサービス事業者等の紹介などの必要な援助を行うよう努めるものとします。

第17条（利用者からの中途解約）

- 1 利用者又は家族代表者等は、本契約の有効期間中、本契約を解約することができます。この場合には、利用者は契約終了を希望する日の前日までに事業者に通知するものとします。
- 2 利用者又は家族代表者等は、以下の事項に該当する場合には、本契約を即時に解約することができます。
 - 一 第9条第3項により本契約を解約する場合
 - 二 契約者が入院した場合
 - 三 契約者に係る居宅サービス計画等が変更された場合

第18条（利用者からの契約解除）

利用者又は家族代表者等は、事業者もしくはサービス従事者が以下の事項に該当する行為を行った場合には、本契約を解除することができます。

- 一 事業者もしくはサービス従事者が正当な理由なく本契約に定める短期入所サービスを実施しない場合
- 二 事業者もしくはサービス従事者が第11条に定める守秘義務に違反した場合
- 三 事業者もしくはサービス従事者が故意又は過失により利用者の身体・財物・信用等を傷つけ、又は著しい不信行為、その他本契約を継続しがたい重大な事情が認められる場合
- 四 他の利用者が利用者の身体・財物・信用等を傷つけた場合もしくは傷つける恐れがある場合において、事業者が適切な対応をとらない場合

第19条（事業者からの契約解除）

事業者は、利用者及びその家族等が以下の事項に該当する場合には、本契約を解除することができます。

- 一 利與者又はその家族等が、契約締結時にその心身の状況及び病歴等の重要事項について、故意にこれを告げず、又は不実の告知を行い、その結果本契約を継続しがたい重大な事情を生じさせた場合
- 二 利用者又は家族代表者等による、第7条第1項から第3項に定めるサービス利用料金の支払いが3か月以上遅延し、14日の期間を定めた催告にもかかわらずこれが支払われない場合
- 三 利用者又はその家族等が、故意又は重大な過失により事業者又はサービス従事者もしくは他の利用者等の生命・身体・財物・信用等を傷つけ、又は著しい不信行為を行うことなどによって、本契約を継続しがたい重大な事情を生じさせた場合

第20条（精算）

第16条第1項第二号から第六号により本契約が終了した場合において、利用者が、すでに実施されたサービスに対する利用料金支払義務及び第12条第3項（原状回復の義務）その他の条項に基づく義務を事業者に対して負担しているときは、契約終了日から1週間以内に精算するものとします。

第21条（苦情処理）

事業者は、その提供したサービスに関する契約者等からの苦情に対して、苦情を受け付ける窓口を設置して適切に対応するものとします。

第22条（協議事項）

本契約に定められていない事項について問題が生じた場合には、事業者は介護保険法その他諸法令の定めるところに従い、利用者と誠意をもって協議するものとします。

上記の契約を証するため、本書2通を作成し、利用者及び家族代表者、事業者が記名捺印のうえ、各1通を保有するものとします。

平成 年 月 日

[事業者] 石川県鳳珠郡能登町字五郎左エ門分藤 17 番地
社会福祉法人 清祥会
短期入所生活介護こすもす
理事長（管理者） 紙 谷 靖 博 印

[契約者] 住 所
氏 名 印

[家族代表者] 住 所
氏 名 印
(続柄：)